

静岡赤十字病院 公的医療機関等2025プラン

平成29年10月 策定



静岡赤十字病院

日本赤十字社

I 静岡赤十字病院の基本情報

医療機関名	静岡赤十字病院
開設主体	日本赤十字社
所在地	〒420-0853 静岡市葵区追手町 8-2

許可病床数	465 床 (平成 29 年 7 月 1 日)	
(病床の種別)	一般	465 床
(病床機能別)	高度急性期	227 床
	急性期	238 床

稼働病床数	465 床 (平成 29 年 7 月 1 日)	
(病床の種別)	一般	465 床
(病床機能別)	高度急性期	227 床
	急性期	238 床

診療科目 (標榜診療科)

内科・リウマチ科・血液内科・糖尿病代謝内科・精神科・神経内科・呼吸器内科・消化器内科・循環器内科・小児科・外科・消化器外科・呼吸器外科・整形外科・形成外科・脳神経外科・心臓血管外科・皮膚科・泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・気管食道外科・放射線科・リハビリテーション科・麻酔科・救急科・病理診断科

平成 29 年度 職員数		(平成 29 年 4 月 1 日現在)			
	職員数	医師	看護職員	専門職	事務職員等
常勤職員数	897 人	97 人	469 人	140 人	191 人
常勤換算数	945.0 人	105.4 人	498.0 人	146.3 人	195.3 人

※初期臨床研修医は専門職に含む

認定・指定等

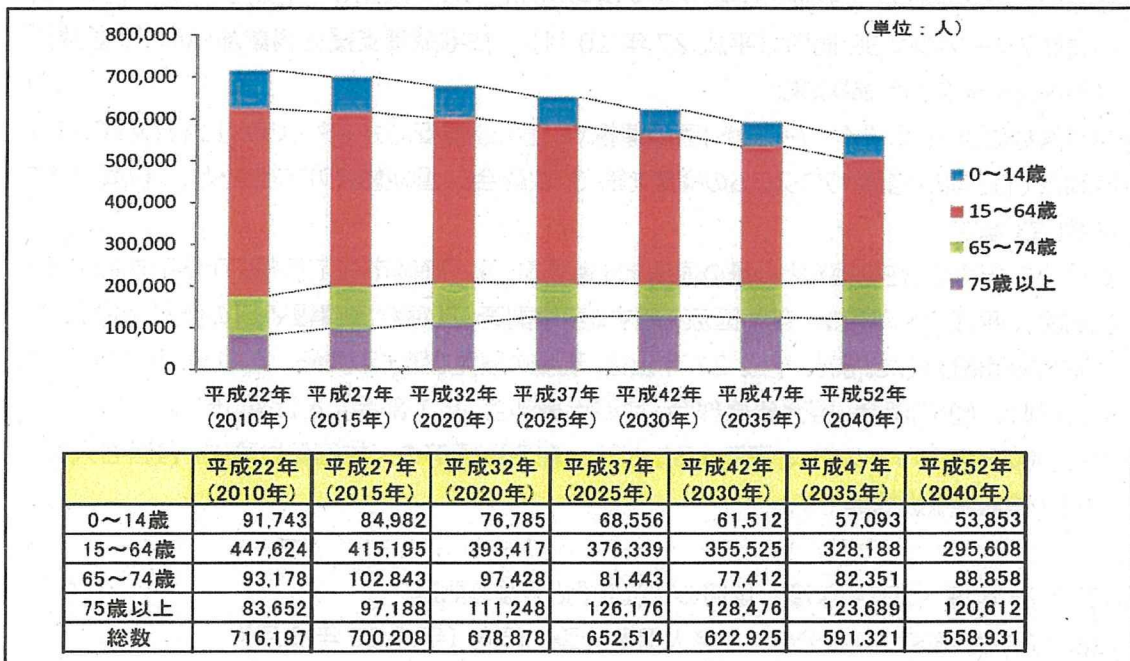
救命救急センター、災害拠点病院 (地域災害医療センター)、地域医療支援病院、臨床研修指定病院、地域がん診療連携推進病院、日本内科学会認定内科専門医教育病院、日本整形外科学会専門医制度研修施設、日本脳卒中学会認定研修教育病院、日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設、日本脳神経外科学会専門医訓練施設 等

II 構想区域の現状と課題

1 構想区域の現状

○人口構造の変化の見通し

- ・平成26年（2014年）10月1日現在の人口は、約70万7千人です。
- ・平成22年（2010年）から平成37年（2025年）に向けては約6万人減少して約65万人に、平成52年（2040年）には約16万人減少して約55万8千人になると推計されています。
- ・区域の高齢化率は27%を超えており、県平均をやや上回っています。今後、高齢化率はさらに上昇し、平成52年（2040年）には37%になると推計されています。
- ・65歳以上の人口は、平成22年（2010年）から平成37年（2025年）に向けて約3万人増加して約21万人となり、その状況が平成52年（2040年）まで継続すると見込まれています。
- ・75歳以上の人口は、平成22年（2010年）から平成37年（2025年）に向けて約4万3千人増加し、その後平成42年（2030年）をピークに減少すると見込まれています。



○医療提供体制・疾病構造・患者の受療動向

- ・平成27年4月現在の使用許可病床数は、一般病棟が4,876床、療養病床が1,981床となっています。
- ・区域内に病床は29病院あり、そのうち一般病床、療養病床を有する病院は24病院、一般病床を500床以上有する病院が4病院あります。病床数のうち約7割が一般病床であり、一般病床の割合が高い区域です。
- ・区域内の医療施設従事医師数は、平成26年12月末日現在1,532人、人口10万人当たりでは216.8人であり、県全体の193.9人を上回っています。
- ・救急医療体制は、2次救急医療を9病院の輪番制体制により対応し、3次救急は救急救命センターである県立総合病院、静岡赤十字病院、静岡済生会総合病院の3病院が対応しています。
- ・周産期医療については、産婦人科医不足の影響を受け、分娩を取扱う病院・診療所・助産所の減

少の傾向にあります。なお、総合周産期医療を担う県立こども病院と地域周産期医療を担う 5 病院が連携して対応しています。

- ・区域内に、地域医療支援病院が 6 病院あり、地域の医療機関との連携を推進しています。
- ・区域内に高度な医療を提供できる医療機関が複数あり、ほぼ区域内において医療が完結できている状況です。高度な医療の提供を求め、隣接する志太榛原及び富士区域から患者の流入があります。

○基幹病院までのアクセス

- ・2 次救急病院へのアクセスは、国道 1 号バイパスや一般道が整備されており、また、中山間地からの患者搬送は、救命救急センター等にヘリコプターによる空路のアクセスもあります。

○在宅医療等の状況

- ・在宅療養支援病院は 1 病院、在宅療養支援診療所は 101 診療所（平成 27 年 4 月）、訪問看護ステーションは 38 箇所（平成 27 年 10 月）、在宅療養支援歯科診療所は 29 診療所（平成 28 年 2 月）あります。
- ・在宅医療については、「イーツーネット」医療連携や「在宅連携安心カードシステム」が行われています。
- ・静岡市では、地域包括ケアシステムの構築を第 3 次総合計画の重点プロジェクトとして位置付けて推進しています。
- ・平成 25 年度に、在宅医療と介護の連携を推進するため、「静岡市在宅医療・介護連携協議会」を設置し、平成 26 年度は、在宅医療に関する実態調査、医療介護情報マップの作成、研修会や講演会を開催しました。また、平成 27 年度は、現場の意見を踏まえながら、集中的に取り組むため、4 つの部会（企画部会、啓発研修部会、地域支援部会、ICT 部会）を設置しました。
- ・今後、地域包括ケアシステムを構築するためには、在宅医療等の人材確保や育成、有料老人ホームなどの施設整備が課題です。

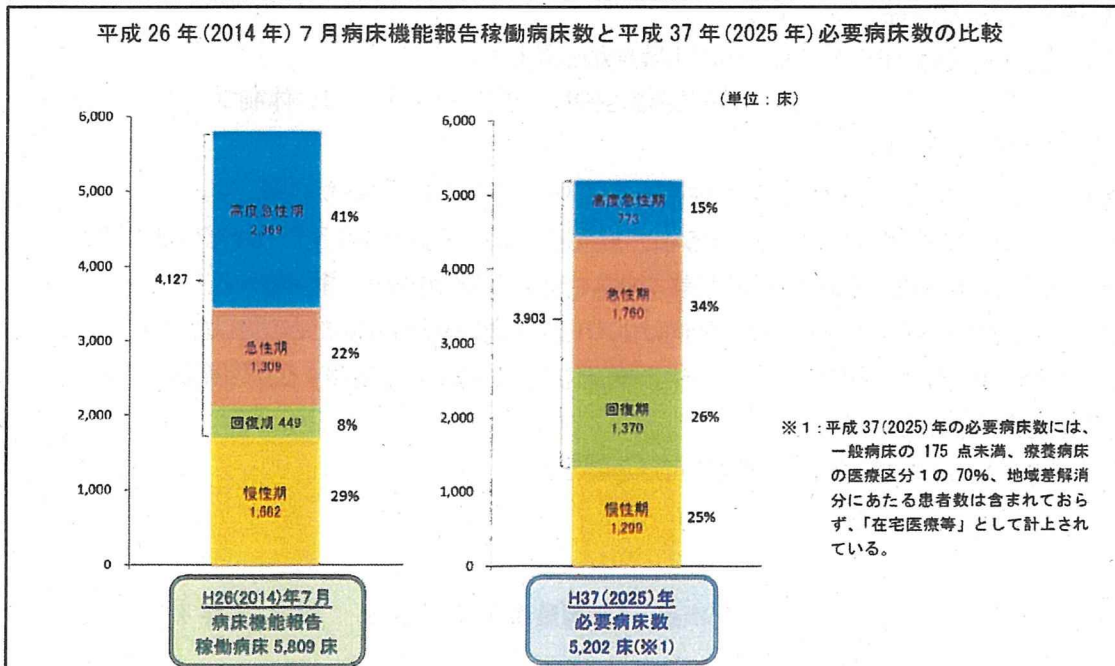
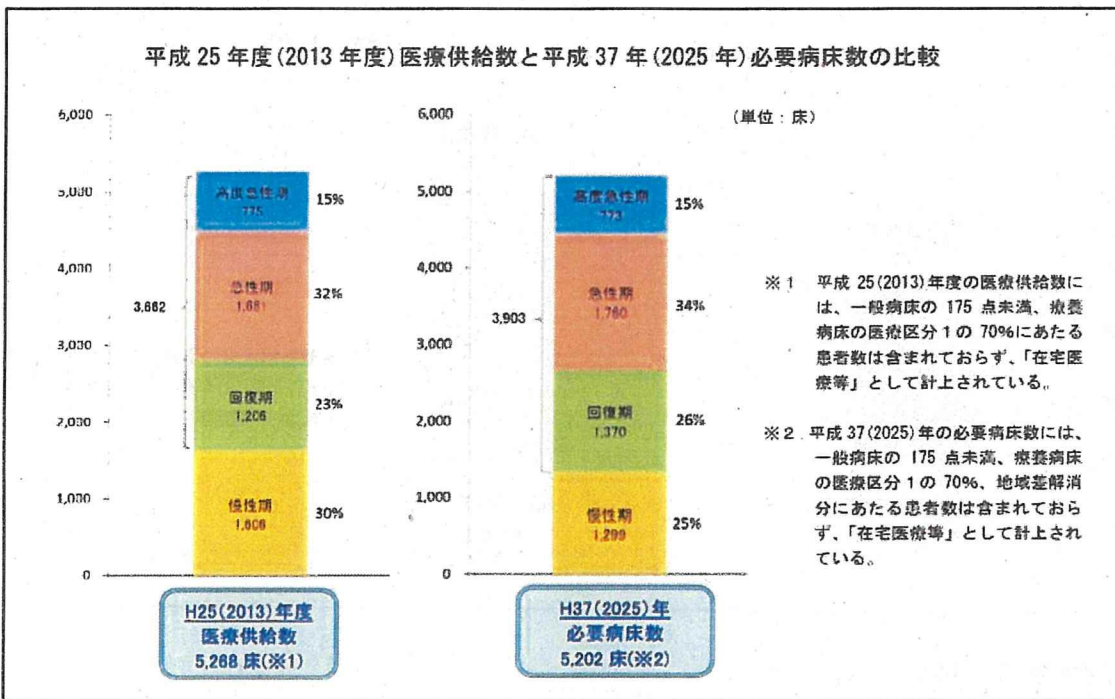
○平成 26 年度（2014 年度）以降の状況変化と今後の見込

- ・山の上病院が病床の約 4 分の 1 を老人保健施設に転換（平成 26 年 6 月）
- ・静岡県立総合病院が高度救命救急センターに指定（平成 27 年 3 月）
- ・静岡市立清水病院が集中治療室病棟及び地域包括ケア病棟を新たに設置（平成 27 年 4 月）
- ・JA 静岡厚生連清水厚生病院が地域包括ケア病棟を新たに設置（平成 27 年 8 月）
- ・静岡赤十字病院が救命救急センター及び産科病棟等の施設整備（平成 28 年 1 月）
- ・静岡済生会総合病院が新救命救急センター棟の施設整備（平成 28 年 5 月運用開始予定）

○平成 37 年（2025 年）の必要病床数

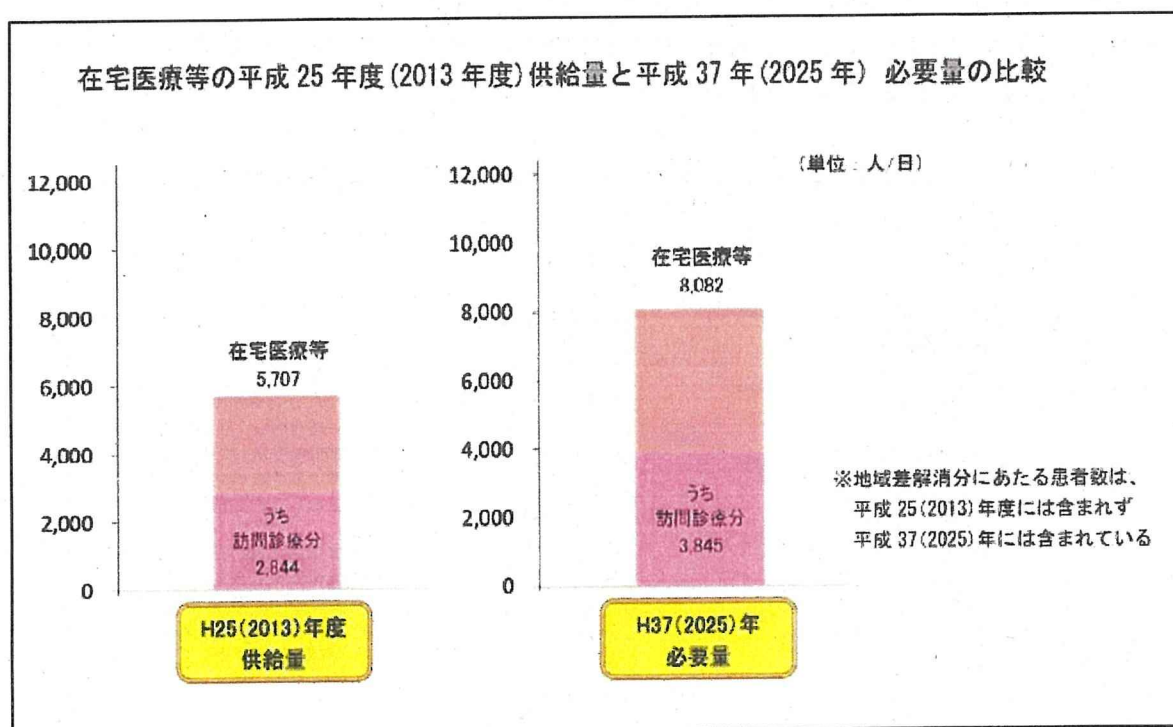
- ・平成 37 年（2025 年）における必要病床数は 5,202 床と推計されます。高度急性期は 773 床、急性期は 1,760 床、回復期は 1,370 床、慢性期は 1,299 床と推計されます。

- ・平成 26 年 7 月の病床機能報告における稼働病床数は 5,809 床です。平成 37 年（2025 年）の必要病床数と比較すると 607 床の差が見られます。その中で、一般病床が主となる「高度急性期+急性期+回復期」は 4,127 床（平成 26 年 7 月の稼働病床数）と 3,903 床（平成 37 年の必要病床数）であり、このうち高度急性期に大きな差が見られます。療養病床が主となる「慢性期」は、1,682 床（平成 26 年 7 月の稼働病床数）と 1,299 床（平成 37 年の必要病床数）であり、必要病床数が報告病床数を下回っています。
- ・平成 25 年度（2013 年度）における医療供給数 5,268 床と比較すると、平成 37 年（2025 年）必要病床数が 66 床下回っています。



○平成 37 年（2025 年）の在宅医療等の必要量

- ・平成 37 年（2025 年）における在宅医療等の必要量は 8,082 人、うち訪問診療分は 3,845 人と推計されます
- ・平成 37 年（2025 年）に向けて、在宅医療等の必要量の増加は 2,375 人、うち訪問診療分については 1,001 人増加すると推計されます。



2 構想区域の課題

○実現に向けた方向性

- ・医療提供体制を確保するために、医師の確保が必要です。
- ・在宅医療等について、現場の医師と訪問看護師等が連携した活動しやすい体制づくりや、人材の確保と育成が必要です。
- ・病院と在宅医療を繋ぐ人材や地域全体をコーディネートする人材の確保が必要です。
- ・病院からの退院支援や休日夜間の対応など、在宅医療を多職種で支えるチーム作りが必要です。
- ・適正な療養病床数にするため、介護療養型を含む老人保健施設の整備や有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅の整備、低所得向けケアハウスの増設など住宅のための整備が必要です。
- ・地域包括ケア病床や回復期リハビリテーション病床などの在宅復帰を支援する回復期機能を有する病院の充実が必要です。
- ・ICTを活用した医療と介護の情報共有が必要です。

出典：「静岡県地域医療構想」 平成 28 年 3 月 静岡県

Ⅲ 静岡赤十字病院の現状と課題

1. 基本理念

基本理念
私たちは「人道」「博愛」の赤十字精神にのっとり、安心して身を任せることができる医療を提供します。
基本方針
<ol style="list-style-type: none"> 1. 私たちは、患者さんの権利と意思を尊重し、十分な説明と同意に基づく医療を提供します。 2. 私たちは、良質で、より高度な急性期医療を提供します。 3. 私たちは、常に危機管理の意識を持って行動し、患者さんの安全を確保します。 4. 私たちは、地域の中核病院として医療連携を重視し、診療所の医師と協力して、患者さんの健康維持に努めます。 5. 私たちは、心身の健康を維持するとともに、医療技術向上に努めます。 6. 私たちは、健全な病院経営を目指します。

診療報酬施設基準

7 対 1 一般病棟入院基本料、総合入院体制加算 3、診療録管理体制加算、医師事務作業補助加算、病棟薬剤業務実施加算、退院支援加算 1、超急性期脳卒中加算、ハイリスク妊娠管理加算、ハイリスク分娩管理加算、医療安全対策加算 1、感染防止対策加算 1、小児入院医療管理料 4、高度難聴指導管理料、がん性疼痛緩和指導管理料 等

2. 患者状況

(1) 患者数の推移（平成 24 年度～平成 28 年度）

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
稼働病床数	431 床	413 床	416 床	422 床	450 床
入院患者延数	139,690	135,898	137,630	139,183	146,831
新入院患者数	9,475	9,341	9,375	9,769	10,066
病床稼働率	88.8%	90.2%	90.7%	90.0%	89.4%
平均在院日数	13.7 日	13.6 日	13.7 日	13.3 日	13.6 日
外来患者延数	231,403	229,652	224,725	210,078	194,314
新外来患者数	34,330	32,549	32,234	30,853	24,768

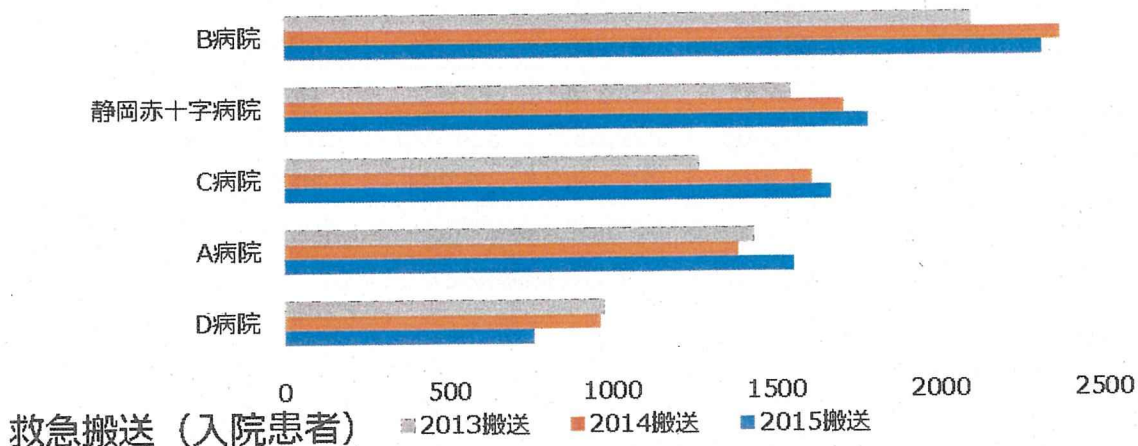
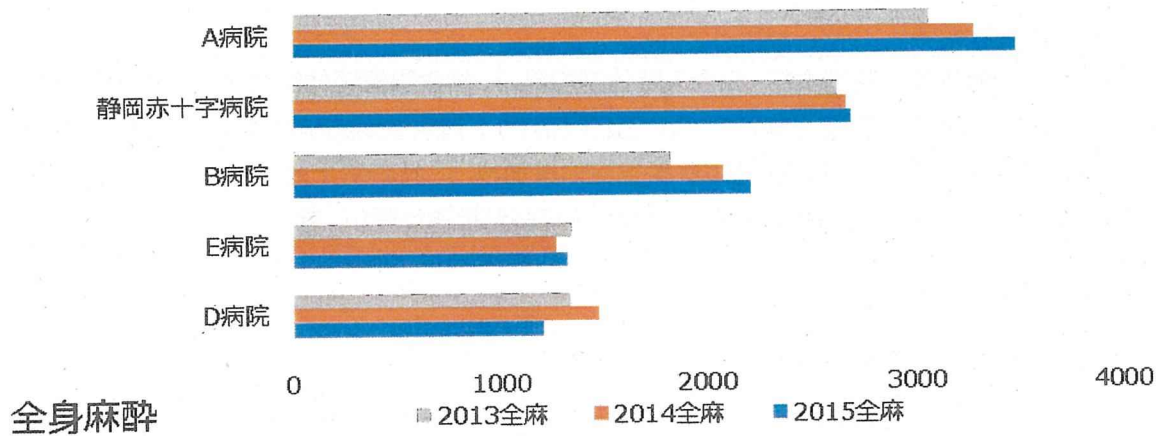
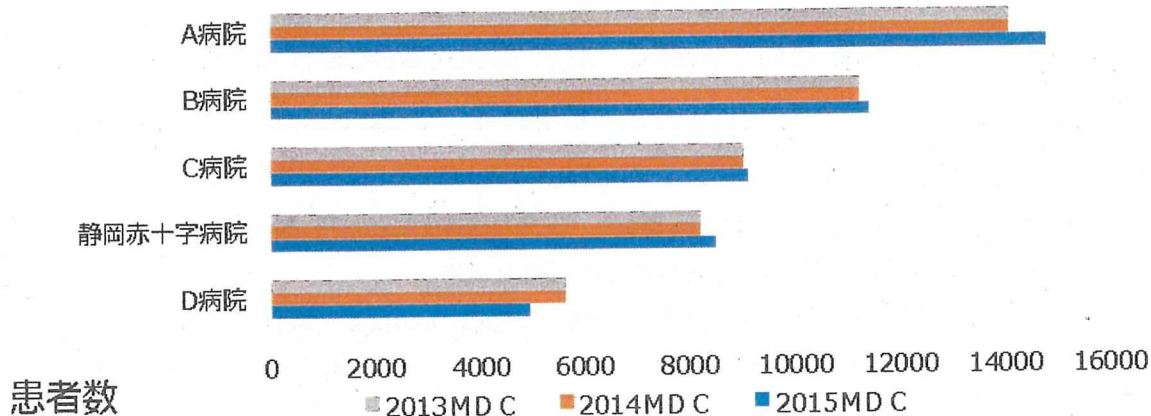
※平成 24 年度から平成 28 年度の期間については新病院増改築工事のため、稼働病床数を減らして運用しており、平成 28 年 11 月より 465 床フル稼働病床となっている。

(2) 手術件数

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
手術件数（手術室）	4,295	4,432	4,451	4,537	4,424
全身麻酔件数	2,815	2,931	2,987	3,013	2,907

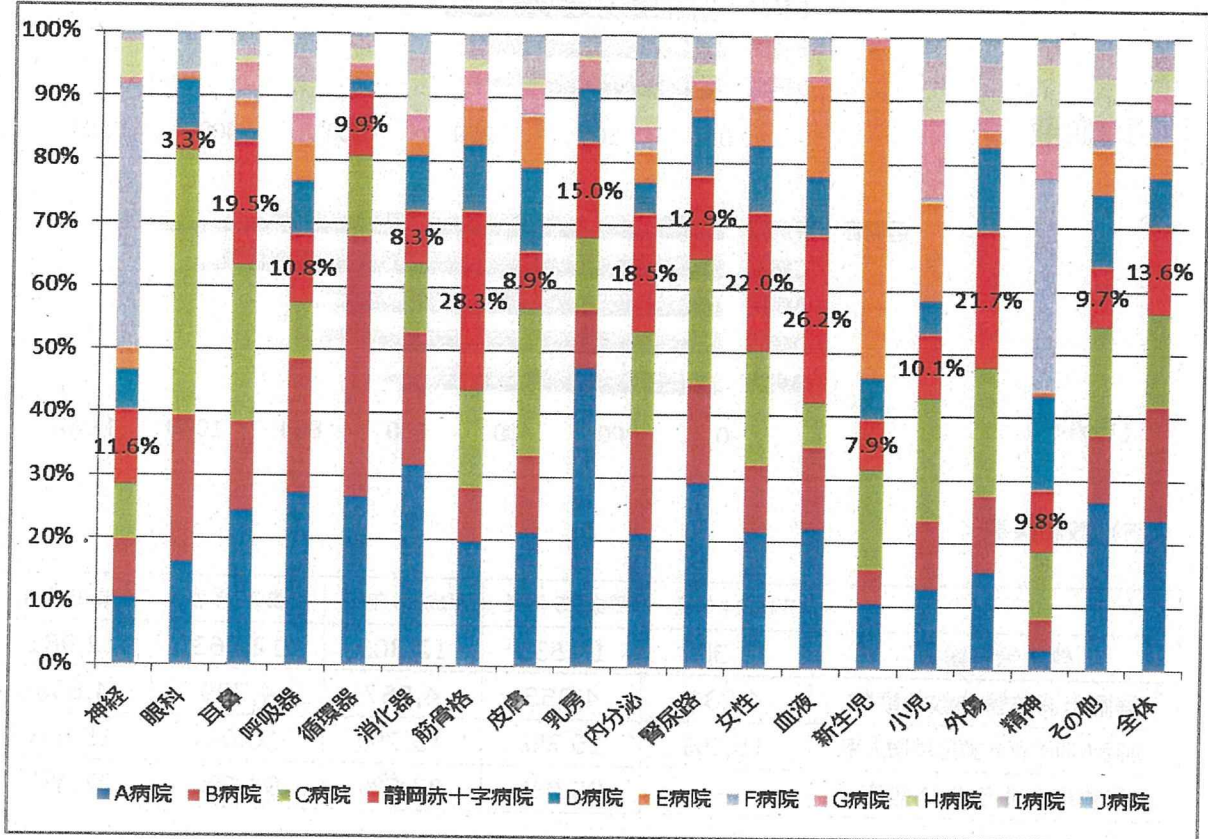
(3) 静岡医療圏 DPC 患者数等 (平成 27 年度)

出典：診療報酬調査専門組織・DPC 評価分科会資料

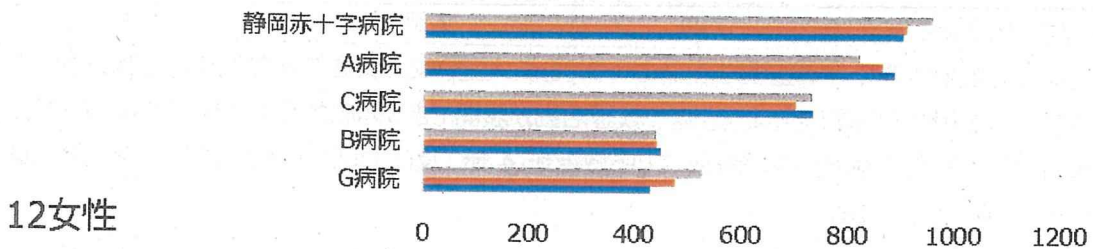
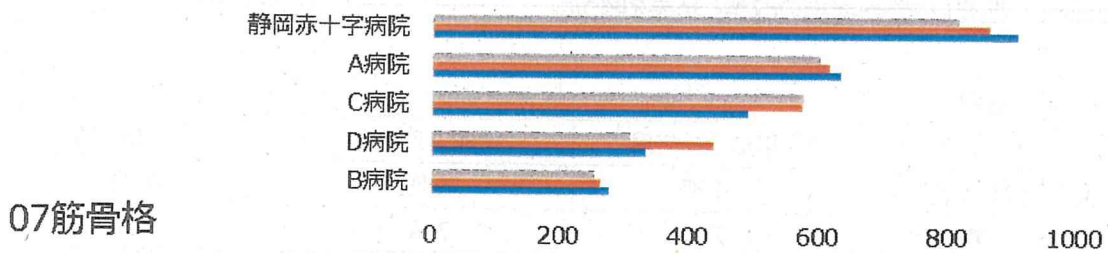


(4) 静岡医療圏MDC別患者数 (平成 27 年度)

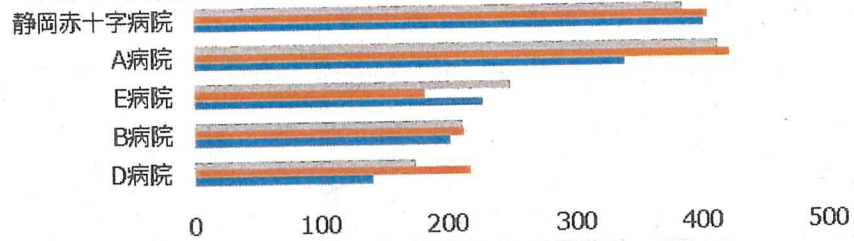
出典：診療報酬調査専門組織・DPC 評価分科会資料



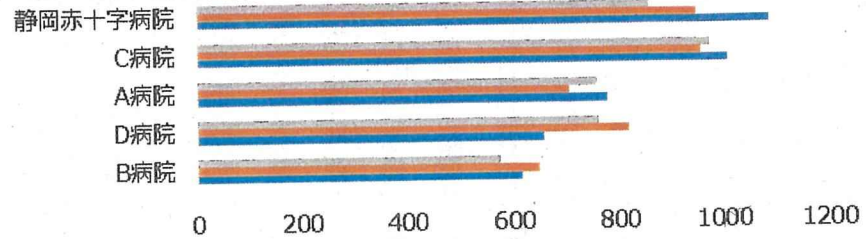
静岡医療圏内における MDC 別患者数において、「MDC07 筋骨格」、「MDC12 女性」、「MDC13 血液」、「MDC16 外傷」の当院のシェアが高くなっている。



13血液



16外傷



(5) 救急医療

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
救急患者総数	13,382	12,535	12,303	12,363	12,981
静岡市消防管内救急車数	4,231	4,355	4,557	4,709	4,636
静岡市消防管内救急車搬入率	15.1%	15.3%	15.7%	16.0%	15.0%
救急車ホットライン応需率	—	95.0%	93.5%	94.6%	97.3%

救急医療については、救急科専門医・専従医による診療体制により、第三次救命救急センターとして重症の患者に対応するとともに、2次救急輪番体制により内科・外科・小児科の当番病院として対応している。救急搬送入院患者数も年々増加しており、平成28年の新病院増改築工事により外来、病棟ともに拡充し、療養環境の改善と充実を図った。

(6) 災害医療

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
救護班数（常設）	4 班	4 班	4 班
DMAT 隊員数	7 人	7 人	7 人
災害派遣実績	0 回	0 回	1 回（熊本）
防災訓練参加	7 回	7 回	8 回

災害救護活動は赤十字の重要な使命の一つであり、地震などの災害の発生時には全国の赤十字病院から被災地に派遣できるよう迅速な救護活動が展開できる体制が整っている。当院においても、医師・看護師・薬剤師・主事で構成している救護班4班、及びDMATが常設されており、災害医療への体制を整えている。

(7) 周産期医療

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
分娩件数	536	567	559	569	581
うち帝王切開	188	204	250	246	237

周産期医療については、産科単科の病棟を有し年 500 件を超す分娩に対応している。また助産師による助産師外来、産科教室、産前産後ヨガなどの各種教室も充実している。

(8) 地域医療連携

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
紹介率	56.6%	56.4%	57.6%	59.5%	68.5%
逆紹介率	74.0%	71.4%	77.1%	86.4%	93.7%
イーネット脳卒中総登録数	1,251	1,421	1,567	1,743	1,940
S-NET 総登録数	198	254	296	431	527

平成 22 年に地域医療支援病院の指定を受け、平成 28 年度は紹介率 68.5%、逆紹介 93.6%と増加している。地域の医療機関からの紹介患者を受け入れるとともに、症状の安定した患者さんの逆紹介を推進している。

(9) その他

平成 28 年 12 月に竣工した新病院増改築工事により、救命外来は以前の 1.7 倍、救急病棟は 3 倍の面積に拡充した。その他、一般外来、病棟、手術室等のリニューアルを行い、施設設備の充実を図った。また、災害発生時にはエントランスホール、外来スペース等をトリアージスペース・診療スペースとして使用できる環境を整備した。

今回の病院整備は、高度急性期・急性期医療の機能を充実し、かつ救命救急医療への対応についても従前より拡張し、対応力を向上させたことから、病床数については平成 28 年 12 月に病院整備に伴い一般病床を 517 床から 465 床へ▲52 床の許可病床の削減を行うことで、稼働病床の効率を高めることとした。

3 今後の課題

- 1.地域の人口構造、疾病構造の変化、高齢化率が上がっていく中、引き続き質の高い医療サービスを提供できる体制の整備を図るため、医療従事者（医師、薬剤師、看護師等）の確保はもとより、高度急性期・急性期医療の更なる充実へ向けて人材育成に努める。
- 2.その他、当院診療機能の中で筋骨格系、血液、女性、外傷といった疾患治療は、現時点でも地域の医療ニーズに当たっているが、更に当該疾患はもとより、悪性腫瘍、救急医療、災害医療についても地域医療のニーズに今以上応える院内の体制の強化を図る。

IV. 今後の方針

1 地域において今後担うべき役割

静岡医療圏は区域内において医療が完結できており、当院も救急医療、災害医療、周産期医療、専門医療等の分野において一定の役割を担っている。

今後も地域の中核病院のひとつとして、診療体制の維持・充実を図り、他の医療機関との連携を図り、静岡医療圏の医療に貢献する。

救急医療：第三次救命救急センターとして、救急科専門医・専従医による診療体制の維持・強化を図り、断らない病院を目指す。

災害医療：災害救護活動は赤十字の重要な使命の一つであり、今後も救護要員の育成を図り、迅速な救護活動が展開できる体制の維持・強化を図る。

地域医療：地域包括ケアシステムの実現に向けて、急変時の救急・入院の受け入れや入院初期から退院に向けての支援を行い、患者さんが退院後、地域での生活において適切でスムーズなケアを受けることが出来るよう、地域の医療機関、介護・福祉機関と連携し、急性期から在宅まで切れ目のない入退院調整機能の充実を図る。

2 今後持つべき病床機能

引き続き地域の中核病院のひとつとして、高度急性期・急性期病床の維持継続を図る。

3 その他見直すべき点

質の高い急性期医療を提供し続けるためには、医師をはじめとする医療従事者の確保による体制の充実が必須であるため、人材の確保及び人材の育成に努める。

また、急性期病院としての診療機能を維持・充実していくための設備投資については、医療需要等を考慮しながら計画的整備を実施する。

V 具体的な計画

1 4機能ごとの病床のあり方について

病床機能区分については、救命救急、手術後など特に診療密度の高い医療を提供する病床を高度急性期とし、高度急性期治療を脱し引き続き急性期医療を提供する病床を急性期とした。また将来においても、救命救急、災害医療、悪性腫瘍、外傷等の外科系疾患へ対応する診療体制を機能させるため、現状の病床機能を維持・継続する計画とした。

	現在 (平成 29 年度病床機能報告)		将来 (2025 年度)
高度急性期	227 床	→	227 床
急性期	238 床		238 床
回復期			
慢性期			
(合計)	465 床		465 床

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017 年度	○地域医療構想調整会議 における協議		<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; border-left: 2px solid blue; border-right: 2px solid blue; padding: 0 5px; margin-right: 10px;">2年程度で集中的な検討を促進</div> <div style="border: 2px solid orange; padding: 5px; margin-right: 10px;">第7期 介護保 険事業 計画</div> <div style="border: 2px solid green; padding: 5px; margin-right: 10px;">静岡県第7次医療計画</div> </div>
2018 年度	○地域医療構想調整会議 における協議	○地域医療構想調整会議 における合意	
2019～ 2020 年度			
2021～2023 年度			

2 診療科の見直しについて

＜今後の方針＞

現時点で見直しの予定なし

3 その他の数値目標について

項目名	数値目標 (2025 年度)	算出式等
病床稼働率	93%	$(\text{入院患者延数}) \div (\text{稼働病床数} \times \text{稼働日数}) \times 100$
手術稼働率	154%	$(\text{手術室で行った手術件数}) \div (\text{手術室数} \times \text{稼働日数}) \times 100$
紹介率	70%	$(\text{年間紹介患者数}) \div (\text{年間初診患者数}) \times 100$ 地域医療支援病院承認要件
逆紹介率	95%	$(\text{年間逆紹介患者数}) \div (\text{年間初診患者数}) \times 100$ 地域医療支援病院承認要件
人件費率	52%	$(\text{給与費} \div \text{医業収益}) \times 100$
医業収益に占める人事育成 にかかる費用の割合	0.4%	$(\text{研究研修費} \div \text{医業収益}) \times 100$

VI その他

1. 臨床研修

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
初期臨床研修医数	24 人	25 人	23 人

臨床研修病院として、毎年 25 名前後の初期研修医が研修しており、様々な疾患に対応できるよう医師として基本的な診療能力を身に付けることを目指し研修医の育成を行っている。

2. 新専門医制度

新専門医制度では、3 領域（内科、整形外科、救急科）の研修基幹病院として、10 領域で研修連携病院として専門医の育成を図る。

3. 看護師教育

赤十字施設キャリア開発ラダー

組織の理念に基づいた赤十字の看護の質向上と専門職としての看護師の職務満足促進を目的とし導入しており、自分のペースで段階的に看護師個々がキャリアアップできる体制を整えている。



赤十字施設キャリア開発ラダー認定者数 (平成 29 年 9 月 30 日)

看護実践者	I	II	III	IV	V
	101 人	38 人	38 人	-	-
看護管理者	I	II	III	IV	
	10 人	8 人	-	-	

4.看護学生実習受け入れ

静岡県立大学、常葉大学、静岡市立静岡看護専門学校より、看護学生の実習を受け入れており、実習施設としての役割を果たしている。

5.専門・認定看護師

がん看護専門：1名、救急看護：3名、皮膚・排泄ケア：2名、がん化学療法看護：1名、訪問看護：1名、感染管理：2名、糖尿病看護：2名、摂食・嚥下障害看護：1名
認知症看護：1名、脳卒中リハビリテーション看護：1名

(別添)

静岡済生会総合病院 公的医療機関等2025プラン

平成29年 9月 策定

【静岡済生会総合病院の基本情報】

医療機関名：社会福祉法人^{恩賜}財団済生会支部 静岡県済生会 静岡済生会総合病院

開設主体：社会福祉法人^{恩賜}財団済生会支部 静岡県済生会

所在地：静岡県静岡市駿河区小鹿1丁目1番1号

許可病床数：521床
 (病床の種別) 一般 521床

(病床機能別) 高度急性期 50床
 急性期 471床

稼働病床数：509床
 (病床の種別) 一般 509床

(病床機能別) 高度急性期 49床
 急性期 460床

診療科目：内科、神経内科、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科、
 整形外科、脳神経外科、形成外科、精神科、小児科、皮膚科、泌尿器科、
 産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、放射線科、歯科、歯科口腔外科、
 呼吸器科、消化器科、循環器科、麻酔科、リハビリテーション科

職員数：(常勤換算値) (単位：人)

医師	128.8
看護職員	533.9
その他専門職	208.3
事務職員	104.6
その他	105.8
計	1081.4

(平成29年4月現在)

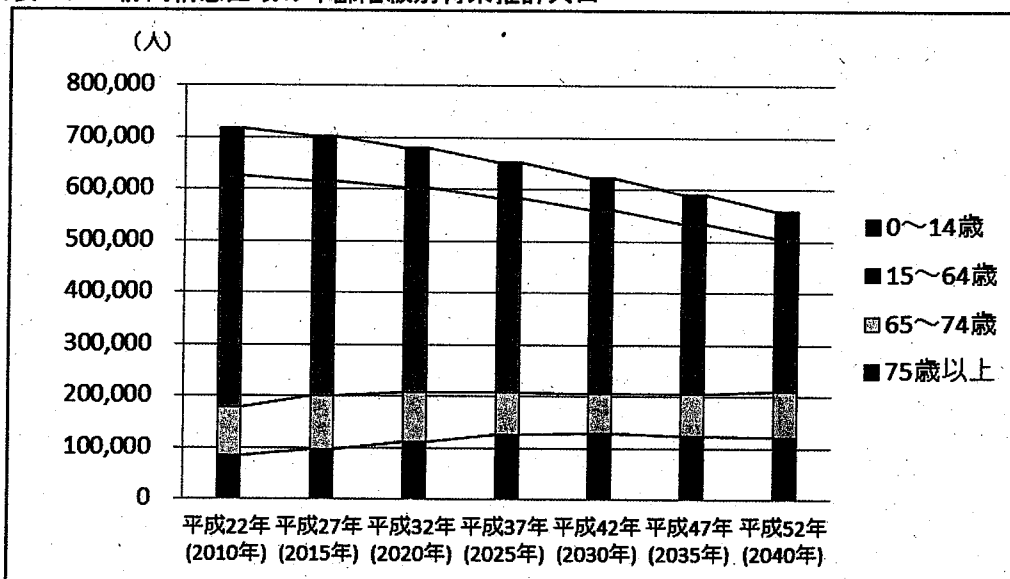
【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

(1) 人口動態

静岡構想区域において、表1のように2015年には人口約70万人であるのが2025年には7%減少し約65万人に、2040年には20.4%減少し約55万人になると推計されている。また、65歳以上の人口は2025年には3.8%増加し、2040年まで増加を続ける。75歳以上人口も同じく2025年には29.8%増加すると推計されている。

<表1> 静岡構想区域の年齢階級別将来推計人口



(単位: 人)

	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)	平成32年 (2020年)	平成37年 (2025年)	平成42年 (2030年)	平成47年 (2035年)	平成52年 (2040年)
0～14歳	91,743	84,982	76,785	68,556	61,512	57,093	53,853
15～64歳	447,624	415,195	393,417	376,339	355,525	328,188	295,608
65～74歳	93,178	102,843	97,428	81,443	77,412	82,351	88,858
75歳以上	83,652	97,188	111,248	126,176	128,476	123,689	120,612
総数	716,197	700,208	678,878	652,514	622,925	591,321	558,931

出典: 静岡県「静岡地域医療構想(第7次)」

(2) 医療環境と病床機能

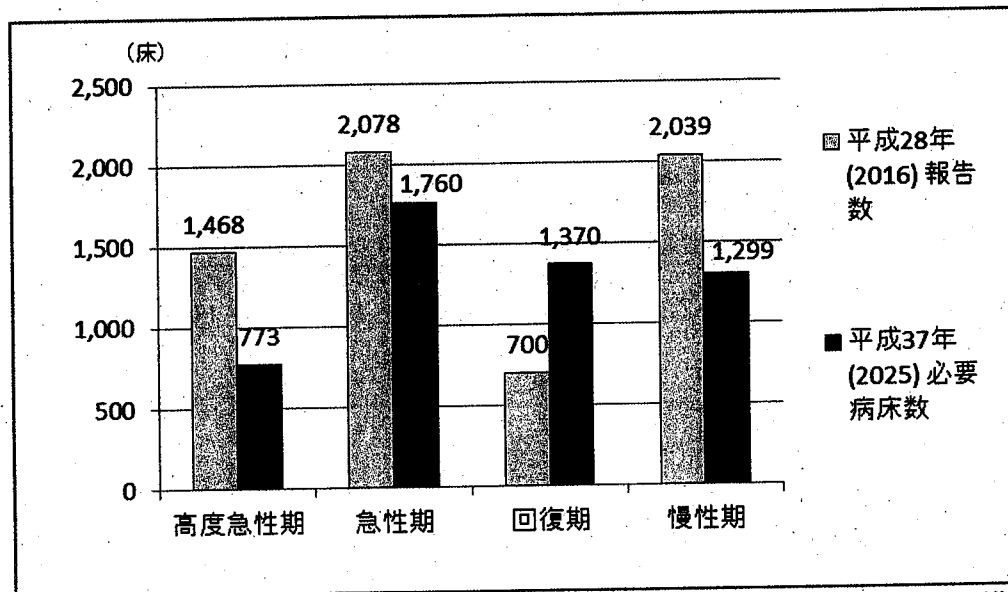
静岡構想区域には高度な医療を提供可能な医療機関が多数あり、ほぼ区域内で医療が完結する。

病床機能においては、病床報告数と必要病床数に差がある(表2参照)。高度急性期病床は2025年の必要病床数に対して2016年の病床報告数では695床、急性期病床は318床多い。一方、回復期病床は、病床報告数は700床と必要病床数の約半数に留まっている。

② 構想区域の課題

高度な医療を提供する総合病院が多数あるため、現状では高度急性期病床は病床報告数が必要病床数に対して多い。一方、回復期病床は必要病床数に対して病床報告数が少ない状態にある。

<表2> 病床報告数と必要病床数の比較



(単位：床)

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
平成28年(2016)病床報告数	1,468	2,078	700	2,039	6,285
平成37年(2025)必要病床数	773	1,760	1,370	1,299	5,202
平成28年－平成37年	695	318	-670	740	1,083

③ 自施設の現状

(1) 理念・基本方針

理念「私達は暖かい思いやりの心で質の良い医療・福祉サービスを実践します」

基本方針

地域との共生

- 1 患者さんの満足、職員の満足、社会の満足をめざします。
- 2 地域のすべての皆様に、差別無く必要な医療を提供します。特に社会的弱者の方には、一層の配慮をはかります。
- 3 医療、福祉、保健にまたがる、総合的なサービスを提供します。

(2) 診療実績

一般病棟入院基本料7対1

地域包括ケア病棟入院料I (平成29年10月より)

1日平均入院患者数

H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度 (4～8月)
435.4	434.0	412.0	438.6	452.6

平均在院日数

H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度 (4~8月)
13.5	15.4	14.4	14.2	13.9

病床利用率

H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度 (4~8月)
85.0	84.8	81.4	86.2	89.2

1日平均外来患者数

H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度 (4~8月)
936.5	932.8	931.6	974.1	979.0

(3) 特徴

駿河区唯一の高度急性期を担う公的病院として救命救急センター、地域周産期母子医療センター、災害拠点病院(地域災害医療センター)、地域医療支援病院等の重要な役割を果たしている。

(4) 政策医療

ア. 7疾病

- ・がん：外科的治療、化学療法、放射線療法等を組み合わせた集学的治療を行っている。また静岡県地域がん診療連携推進病院として指定されている。
- ・脳卒中：脳卒中の救急医療を担うとともに、身体機能を回復させるリハビリテーションもしている。
- ・心筋梗塞等の心血管疾患：救急医療を担うとともにカテーテル治療も行っている。
- ・糖尿病：専門治療・急性増悪治療を担っている。
- ・喘息：平成28年度の医師赴任により診療体制が整い、専門的治療も担っている。
- ・肝炎：県より地域肝疾患診療連携拠点病院として指定を受け、専門治療を担っている。
- ・精神：入院病棟は有しないため救急には対応していないが、身体合併症治療には対応している。

イ. 5事業

- ・救急医療：三次救急医療としては救命救急センターにて重篤な救急患者の受け入れを行っている。また輪番制にて二次救急患者も受け入れている。
- ・災害時における事業：災害拠点病院(地域災害医療センター)の指定を受けており、災害派遣医療チーム(DMAT)が2チーム編成されている。
- ・周産期医療：第二次周産期医療を担う地域周産期母子医療センターとして、ハイリスク妊娠・分娩に対応し、NICUを9床持つ。また第三次周産期医療を担う総合周産期

母子医療センターである県立こども病院と連携し診療を行っている。

・小児医療(小児救急医療を含む)：小児専門医療、入院小児救急医療を担っている。

(5) 連携

地域医療支援病院として開業医等との連携、また輪番制によって救急医療における連携をとっている。周産期医療では総合周産期母子医療センターである県立こども病院と連携している。

④ 自施設の課題

地域における重要な役割を確実に果たす必要があるが、新専門医制度がスタートし、今後の医師確保について不透明感が強い。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

当院は駿河区唯一の高度急性期医療を提供する公的病院として、救命救急センター、地域周産期母子医療センター、災害拠点病院(地域災害医療センター)、地域医療支援病院等の役割を担い、駿河区のみならず静岡医療圏において欠くことのできない病院である。今後もその役割を継続して果たしていく。

なお、高齢の入院患者の増加等が見込まれる中、地域医療センターの強化や地域包括ケア病棟の設置等により、前方連携から入退院支援、後方連携について、患者の視点に沿ったPFM(ペイシェント・フロー・マネジメント)を促進する取組みを強化していく。

② 今後持つべき病床機能

現状に加え、今後地域において必要性が高まるSCUを設置する必要がある。

③ その他見直すべき点

病床利用率は向上しており、病床数は適切と考えている。また、この一年病床利用率は90%近い値を保っており、日によっては100%を超える日もあることから、現状を維持していきたい。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	50	→	55
急性期	471		466
回復期	0		0
慢性期	0		0
(合計)	521		521

<具体的な方針及び整備計画>

SCU病床の設置に伴い、高度急性期病床数を増床。(50床→55床)

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度	地域包括ケア病棟運用	2017年10月 設置	
2018年度			
2019～2020年度			
2021～2023年度	SCU病床の新設検討	SCU病床の設置	

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持	現在の診療領域を変更する予定はないが、必要に応じて標榜科あるいは診療科を変更していく。	→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率：93%以上
- ・ 新入院患者数：33人/日
- ・ 救急患者受入れ率：100%
- ・ 看護必要度を満たす割合：30%以上
- ・ 入院支援センター利用率：100%
- ・ 紹介患者受入れ率：100%
- ・ 紹介率：60%以上
- ・ 逆紹介率：100%

経営に関する項目*

- ・ 人件費率：50%以下
- ・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合：0.5%

その他：

- ・ 地域包括ケア病棟の整備に対する平成29年度病床機能分化促進事業費補助金を活用予定。

* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】

(自由記載)

日頃、救命救急センターとして三次救急を担っているが、空床数が不安となる日もある。また災害時には広域搬送のシステムが十分に機能するか心配があり病床の確保が不安である。